



TITLE:

「創造」乱象 交錯する社会ロジック視角下の計画発展: 毫州漢方薬剤集散市場の事例研究

AUTHOR(S):

傅, 琦

CITATION:

傅, 琦. 「創造」乱象 交錯する社会ロジック視角下の計画発展: 毫州漢方薬剤集散市場の事例研究. 2014年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ報告論文集 2015: 13-19

ISSUE DATE:

2015-02-28

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/198432>

RIGHT:

「創造」乱象 交錯する社会ロジック視角下の計画発展

—亳州漢方薬剤集散市場の事例研究

傳 琦 (FU Qi、ふう・ちい) *

要旨：改革開放後、亳州は地方政府の発展計画により、中国四大薬都のひとつへのし上がり、最大の薬材市場空間と最大の飲片産業地域を有し、中でも薬材の年間取引額と出荷量は全国の4分の1を占めるようになった。しかしながら、フィールド調査によって市場の繁栄の背後には混乱した状況が渦巻いていることが明らかになった。本論は交錯する社会ロジックの視点から、亳州薬材市場がなぜ今日のこのような局面を生み出してしまったのかを再考する。国家や地方政府、薬商、大型外来資本の政治、市場、文化の三重ロジックの交錯の下での相互作用の分析を通じて、市場繁栄の表象は、地方政府が国家に向けてより大きな責務を負うために発するシグナルであるとみなす。市場の背後の混乱は、まさに地方政府がシグナルを発し社会に向けて伸ばす「略奪の手」に由来するのである。亳州薬材市場の勃興過程は、同時に地方政府が発展計画の名の下に、社会に向けて取り立てを行う程度が日々深化して行く過程でもある。このため、地方政府の力は増大しても衰弱はせず、政府の得る利益は増加すれども減少はせず、薬商たちが「搾取」される度合いは深まれど浅くなることはなく、民衆の連帯は削減されても増強されることはない。

キーワード：交錯する社会ロジック 計画発展 薬材集散市場 シグナル

2011年、亳州漢方薬材交易センターにおいてフィールド調査を行った。中心となる空間は「大行」を中心に配置され、個別の薬商たちが露店を借受け薬品を売る場所である。周囲には千に近い数の「小行」が分布しており、これは貴重な薬材を主に取り扱う個別の店舗である。薬商たちは毎日、大行へ来て商品を売ること「上行（商売に行く）」、店を片づけて帰宅することを「下行（商売から帰る）」と呼ぶが、これらの言葉づかいから、亳州薬材市場が非常に栄えているように見える。しかし、フィールド調査を深めるにつれて、栄えている市場の背後では混乱した状況も発生している。合法行為と非合法行為が交錯して共存し、市場の管理者は面倒を抱え、漢方薬材集散地の伝統的特色は相貌は見当たらず、薬商たちは商売がし辛いと嘆いている。亳州薬市はなぜこのような状況を発展させてしまったのだろうか。以下では、薬市空間と産業構造調整の両面から亳州薬市の急激な発展を叙述し、最後は交錯する社会ロジックの視角から提起した課題に解釈を加える。

1. 薬市の過去と現在

亳州は安徽省の西北部の淮河流域に位置し、自然条件に恵まれ、1800年以上もの薬材栽培の歴史を有するとされている。地理や交通の便にも極めて恵まれているため亳州の歴史は古来より「商」の字と結び付けられて語られ、中国南北経済が交錯する重要都市となり「小南京」とも称され、その中で最も隆盛を極めた地域は北関であった。明代清代には、亳州は薬材集散規模により中国「四大薬都」¹のひとつとなり、北関仁街を中心とし、これ

* 南京大学人類学研究所博士課程

¹ 「四大薬都」の言い方は一定ではなく、ある見方では、安徽省亳州、河南省禹州、河北省安国、江西省樟樹、また他のある見方では、安徽省亳州、河南省禹州、河北省安国、河南省百泉、あるいは安徽

に老花市街と紙坊街を加えた分散した交易所が中華人民共和国建国までに存在していた亳州薬市の構造をなしていた²。里仁街は全長 300m、幅 5m程度で、薬店が 30 件余りあり、街道の両脇の店舗はみな大きな店舗であり、貴重な薬材の交易や大量交易が主となっていた。取引量が多いため、里仁街には固定的な労働者と「紅車子」と呼ばれる運輸道具があり、専門的に薬材運送を担っていた。

しかしながら、清朝の末期以降、内憂外患の影響の下に置かれ、そして建国以後には国家が進める一連の公私企業の統合政策の下に置かれ、北関商業は日に日に衰退し、反映していた薬市は姿を消したが、改革開放にいたり、私企業の復活により（周立群、謝思全 2008:9）、亳州薬市もようやく息を吹き返し、公認の中国四大薬都の首位にまで発展した。2012 年までに、亳州市漢方薬材の平年の土地扱い量は全国栽培面積の 10 分の 1 を占めるようになった³。「世界最大の漢方薬材取引物流センター」「世界最大の漢方薬材集散地」と呼ばれる最大の薬市空間となった。交易センターの年間取引額は 200 億人民元を突破し、全国市場の 20%以上を占めている。飲片（薬材を煎じるために細かく刻んだもの）年間生産量は 30 万トンで全国の 4 分の 1 を占め、中国最大の飲片産業の集積地である。

2. 薬市空間の拡張

亳州薬市の空間の拡張は改革開放後に始まったが、それ以前において亳州市の私設薬材市場は公に見えない空間であった。当時、国家が高度に集中的な計画経済体制を実行しており、亳州最大の地元薬材—白芍薬を中国史上最大の滞貨となり、在庫時間が最長の品種で、薬材生産農家の生活はますます悪化した。「統購統銷」（統一購買統一販売）政策により白芍薬は二級統購品種と定められ、個人的販売や流通は禁じられ、違反者は「投機倒把（相場投機）」⁴とされ、生きるために一部の薬材生産農家は危険な行為に走り、外部へ出て密売買に手を染めたが、この経緯は亳州ではよく知られていることである。改革開放にいたり、これら密売買薬材生産農家たちはようやく販売経路得たことで、薬材商に専従できるようになり、次第に亳州市の街は自ずと人が集まり、亳州薬材市場空間はようやく「見えない」存在から「見える」存在へと転じたのである。

1978 年の改革開放以後、中国は経済建設に力を注ぎ始め、地方経済発展の主導権が地方に付与された。地方経済を発展させるには有効な「金を掴む手」を見つけ出す必要があり、地方発展には何かに重点を置くかと判断しなければならない（曹正漢 2009）。悠久の歴史と伝統を持つ薬材集散市場が亳州地方政府の目にとまり、経済発展のカギとされたのである。それで、1984 年、政府はかつての亳州城外に 36 畝（2.4ha²）の薬材交易所を建設し、民間ではこれを大行と称し、亳州工商局は某労働会社を設立し管理を請け負わせた。薬商たちは当時の露店賃借料は高くはないと言い、政府もこれら薬商の方を向いており、事があれば政府が解決をしてくれていた。大行の建設と同時に、政府はさらに四条薬材専門街

省亳州、河南省禹州、河北省安国、広西省玉林とされている。

² 亳州市史（1987-2000）評議原稿、亳州市譙城区地方史編纂委員会編。

³ 亳州市政府ニュース公開サイト（<http://www.bzzwgk.gov.cn>）の亳州市漢方薬産業移輸入の業務転換と拡大についての調査研究を参照。

⁴ 計画経済時代には、「投機倒把」は非常に重い罪状であり、拘留されるだけでなく、批判闘争や牢に入れられ、呉曉波（2007 viii）が見つけたある事例にいたっては、ある婦人が投機倒把の罪状で死刑に処されている。

を造営し、それに次いで薬材会社と石炭会社にふたつの薬材市場を建設することを認可した。

1994 年、亳州地方政府は資本誘致を開始し、大量低価格で農業用地を政府が徴発した後に「招、拍、挂」^{訳者注 1}等の形態で高価で譲渡し、珠海華僑不動産が亳州に入り込む第一号の大型海外資本となり、これと亳州地方政府は共同事業の契約を交わし、「中国漢方薬材交易センター」への投資と建設を行った。1995 年、交易センターを使用し始めた時、政府は当時の四条薬材街と三つの薬材市場を交易センターへ移転させ、散らばった亳州薬市の空間は一つのまとまりになった。交易センターは当時規模最大、品種最大の薬市にのしあげられた。しかし、移転によりなじみの顧客が流出し、交易センターは地理的に遠いだけでなく、露店賃借料の上昇も少なくなく、薬商たちは移転しなかった。これらの交易センターへの移転を拒んだ薬商たちは都市においてその管理人員との「ゲリラ戦」を行い、最も遠い時には、毎日数千人が亳州と河南鹿邑の境界地まで交易を行いに行っていた。政府の取り締まりも効果を挙げず、薬商の需要に合致するサンプル店を設置せざるを得ず、かくしてようやく移転が完了した。

2006 年、江蘇 TDL 集団が珠海華僑不動産に取って代わり、亳州大行を掌握し、たった 4 年で大行はふたたび、広州 KM 薬業により、1.68 億円の価格で買収された。大行買収後、KM 薬業は「世界最大薬材取引物流センター」、「世界最大のワンストップサービスの漢方薬材集散所」の「漢方城」プロジェクトを打ち出した。「漢方城」の小行の取引が始まった時には、一平米あたりの平均価格は 12,800 人民元へと高騰し、KM 薬業は速やかに自身の「金集め」イメージを作り出した。薬商たちの怨嗟の声が満ち、彼らは長年稼いでは貯めて来た資金が賃借料のために使い尽くされ、KM 薬業はまるで公開略奪を行っていたかのようであった。小行の薬商たちは「大行は言われた通りに移転できない」として政府前でデモをし、政府が何かしらの話をしてくれるだろうと期待していた。しかし、私服警官が彼らのリーダーを連れ去った後は、薬商たちはみな怖れ、彼らは政府はすでに KM 薬業と裏取引していると考え、「腕をねじっても足には届かない」と信じ、速やかに運動をひそめた。亳州薬市はかくして、空間規模の拡張を再度実現した。

3. 飲片集団の誕生

飲片とは薬材が精製を経た後で、直接漢方医の臨床あるいは製剤生産において使用する処方薬品である。亳州の地元の歴史叙述の中には、飲片の個人加工、また機械を使わず人手で飲片を刻むことが亳州薬市の特色であり、亳州薬市の成長の基である。飲片はずっと個人薬商により集散交易が行われて来たと言われている。しかし、2003 年中国で流行した「非定期肝炎」の後期になると、中国中央テレビが亳州飲片の偽物詐欺を報道し、飲片の生産販売問題が人々の耳目に入るようになった。国家は再度飲片が工場で生産されるべきであり、個人の加工と販売を禁止すると言明するし、さらにすべての漢方飲片生産企業は必ず 2008 年までに GMP（薬品生産品質数量管理規範基準）の認定を受けなければならないということを強硬に要求した。そうしなければ、生産が政府に停止される可能性がある。亳州薬市の販売は一気に落ち込んでしまった。その後、再生するために、亳州市は「三步走」

^{訳者注 1} 「招」は「招標」の略で、入札を募るという意味である。「拍」は「拍売」を意味し、競売を指す。「挂」は「挂牌」の頭文字で、開業するという意である。

発展計画を提起し、強力に飲片工場建設を支援し、漢方薬産業の発展を促進した。

政府の扶助力の大きさは少なくない薬材商を吸引し、私のインフォーマントである高店長一家は政府の某部門から数十畝の土地を引き受け二千数百萬元を投資し、2011 年頃には飲片工場の建設投資を開始した⁵。「政府は当時、我々の工場建設を支持しており、我々に広い土地を提供し、我々が工場の建設中から、手続きを行うことを承認してくれたが、普通ならば工場の建設が完了してから必要な手続きが可能となるはずだった。もちろん地質調査、倉庫設計、事務棟、消防など、我々の一步一步はみな国家の基準に拠ったものであった」と高店長は語る。

国家 GMP 基準に合致するある飲片工場が建設されるまでに多額の投資が必要だと考えられ、すべての飲片工場の薬商がこのための経済力を持っているわけがなく、私のインフォーマントによれば、亳州市政府は工業団地を設定し 110 件の小型飲片工場の建設計画を提起した。これら飲片工場の規模は大きくはなく、投資は 1,000 萬元に満たず、100 件の飲片工場が用地を統一し、政府が統一的に行政手続きを行い、飲片検査所や污水处理場を共用するとした。ある飲片加工工場の中で会計を担当している人物 A が語るところによると、こうした小工場は亳州には多く存在し、彼らの絶対多数が抜け殻である。個別の飲片加工者から飲片を買い取るのが主であり、自分で加工するのは少ない。A の飲片工場を例にとると、そこでは昨年の販売額は 1.5 億人民元だが、実際には、この工場自身の生産量は 1,000 万人民元に満たず、その他は個別の加工業者により、この工場の名義で販売されている。インフォーマントが酒席で示したのは、現在ある程度資本が工場を開くことができ、商売の優位に立つことができる。政府は少しでも実力のある者を表に出し、監督は簡単になり、管理の政治的業績が出来上がると、税収は高くなるので、喜んでこれを行っている。

ここからわかるのは、飲片加工の不法主体として、個々の主体が市場からは退出せず、これら小飲片工場の委託を受けているのである。漢方薬飲片が一種の労働密集型と市場密集型産業であることにより、亳州飲片産業が軌道に乗り始めると、取引コスト低下の低価のため、多くの後期に建設された飲片工場も建設地を亳州に選定し、亳州は次第に中国最大の飲片産業集積地となり、亳州薬界は「国内飲片の 3 分の 1 は亳州のもの」とまで言われるようになった。

4. 結論—交織する社会ロジックの視角からの出発

Robertson (1984: 7-9)は計画の歴史を整理した上で、国家の国民経済に対する干渉は久しい歴史をもつとは言え、国家により発展計画が制定されるというのは 20 世紀以後の発明であると指摘する。もし交織する社会ロジックの視角 (Oliver de Sardan 2005: 24-25) から詳しく見るならば、計画発展とは能動者間の相互作用であり、これら相互作用は同時に交織する幾つか社会ロジックによって規定する。亳州薬市の急激な発展は国家、地方政府、薬商そして大型外来資本の 4 大能動者の間の相互作用に関連し、4 者はすでに相互に関連を持ち、ひとつの機能的な全体を構成しており、これが本論が論じる亳州薬市が起こす事柄の構造要素である。

⁵ 学術の原則に沿い、ここで挙げる姓名は仮名であり、特定されやすい数字についても同様の処理をしている。

4 大能動者間の相互作用とは、政治、市場、文化の3種の社会ロジックからの影響を受けている。その中で、政治ロジックは主に主導権の争奪を意味し、市場ロジックは自発的秩序と限定的な政府介入を主張し、文化ロジックは家族主義を指す。市場ロジックの参入後、国家は経済成長への追従を開始するだけではなく、みずから部分的に経済や社会の領域から退き、分権化改革の方式を推進し、さらなら急速な発展と高い経済収益を求め、最大限に亳州地方政府と能動的地位に影響を与え、日に日に地方経済の発展を自身の能力と見なすようになり、自ら企業を経営し、大行を建設したのである。

主導権の統制は党に統治された国家にとっては大変重要であり、国家は市場ロジックの進行を受け高度に分権化すると同時に、地方官吏を統制する任免権を高度に集権化して、「官員目標責任制（Cadre Contract Responsibility System）」（付勇 2007）を実行した。つまり上級政府により直属の下級政府の責任契約が設定され、わずかな期間内での GDP の上下が官吏昇進考査基準とされ、これが地方官吏が短期的な政策ゲームを重視することを引き起こし、迅速に地域の差を大きくすることが、同じレベルの官僚との競争の原動力となり、短期の内に効率の高い発展プロジェクトを探し求めることとなり、政治的業績になり（付勇 2007）国際的な「中国の奇跡」という名誉を創造し、亳州薬市の誕生も地方政府のこうした背景の下での経済発展の動きによるものなのである。

これより、亳州薬市は歴史的な自然発生的集積地状態を終焉させただけでなく、政府のための「集中管理」が始まった。元々は同質で合法と非合法の区別がない薬市空間は二分され。伝統的な「家庭」での生産は非合法となり、家庭で行った経営と交易は政府部門によって攻撃される対象となった。しかし、家庭は薬商たちが薬材を販売、加工する基本的単位であることから、薬商たちの経営は合法と非合法の間を行き来している。

1993年の税制改革以後、地方政府は上級の政府部門からの財政的支援を受けられなくなり（参考：周雷光 2005）、価値が低下した大量の農業用地を収容し、再び入札の方法で資本を誘致する経営都市の手法により（周飛舟 2010）、政治実績シグナルを送るために必要な予算外資源を獲得した。こうなると、我々はなぜ亳州地方政府が90年代から資本の誘致を行ったのかを理解することは難しくない。理解が難しいのは、なぜ80年代の旧大行時期に政府はなおこれら薬商の方を向いていたのが、90年代からは大行の露店賃借料が次第に高騰しただけでなく、政府はKM薬業という大型外部資本と組み、薬商から「略奪」することに手を出したのか。GMP認証を満たしていない小飲片工場の支援を通して、薬商たちに無理やり飲片工場の商標で商売をさせ、政府は元々統制が届かなかった資源を彼らが支配できる財政能力とした。これは政府がなぜ一貫して薬商たちが行う個別飲片加工を保護したのかの理由である。（図1）

当然ながら、政府が伸ばす「略奪の手」に対して、家族主義も伝統文化として協力した。費孝通（1988：27）から見ると、家庭は個人のミクロな人間関係の起点であるだけではなく、「家庭」を中心として、「押すほど遠く、押すほど薄く」外へ向かい一種の「差序格局」が出現する。家庭は依然として中国社会の活力の原点であり、中国文化の活力は世代の間に存在する。中国に個体化が現われている（閔雲翔）といえども、亳州の薬材集散範囲において、薬商たちは依然として家庭を中心として彼らの生活を経営しており、まさに孔邁隆（Cohen 1992）が言うように、新しい（市場）経済の形態は家庭にその財産と経済実体としての伝統的地位を失わせることはなかった。薬商たちは常に家族全体の「安全」

を考慮するために、自己の権利の維持を自ら放棄し、担当すべき義務から逃避した。わずかながら、政府より恐怖を受け、すみやかに声をひそめてしまったのである。

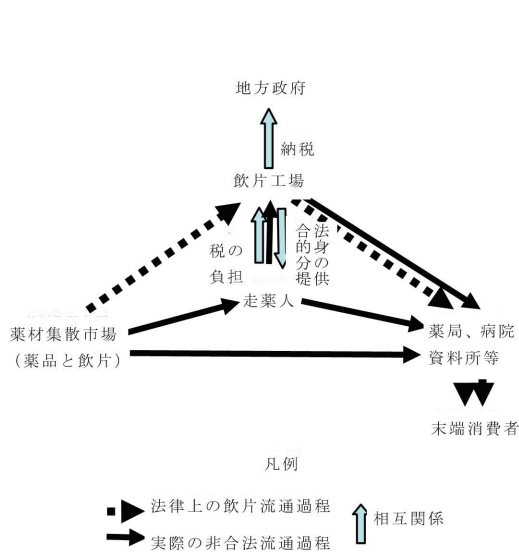


図1 飲片工場の薬材集散における作用

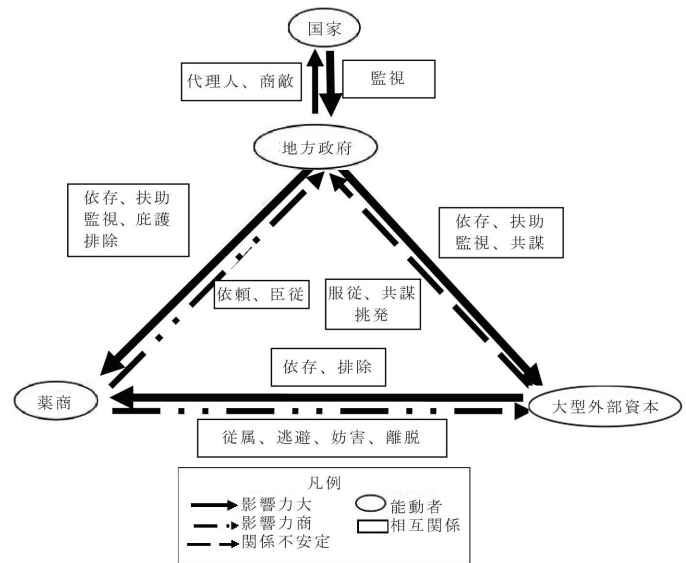


図2 亳州薬市勃興の相互作用関係

このように、一定の発展主導権を握る地方政府は、中央の「責任を重視し、量から審査し、昇進競争」という管理と激励の構造の下、政策実績の信号を送るために、個人薬商たちに対して支援、保護、管理監督をしながら、また大型外部資本と手を組んで「略奪」を行うのである。薬商と国家の間で地方政府が対応するときには、一方で国家の代理人となりながら、一方で国家の意思に反抗する「敵」であり、これが必然的に亳州薬市の混乱した状況の発生を導いている（図2）。

参考文献

- A. F. Robertson. 1984, *People and State: An Anthropology of Planned Development*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Cohen, Myron.L.1976, *House United, House Divided: The Chinese Family in Taiwan*. NewYork: Colulmbia University Press.
- Jean-Pierre Olivier de Sardan.2005, *Anthropology and Development: Understanding Contemporary Social Change*. London & New York: ZED Books.
- (印)阿瑪蒂亞森, 以自由看待发展, 任曠、于真译, 北京: 中国人民大学出版社, 2012。
- (英)波兰尼, 大转型: 我们时代的政治与经济起源, 冯钢、刘阳译, 杭州: 浙江人民出版社, 2007。
- 亳州市志(1987—2000)评议稿, 亳州市谯城区地方志编纂委员会编。
- 曹正汉、史晋川, 中国地方政府应对市场化改革的策略: 抓住经济发展的主动权——理论假说与案例研究, 社会学研究, 2009(4)。
- 费孝通, 1998, 《乡土中国 生育制度》, 北京: 北京大学出版社。

- 傅勇，中国式分权、地方财政模式与公共物品供给：理论与实证研究，复旦大学博士学位论文，2007。
- 王运萍，传统“家本位”思想及其延伸的现代启示，太原师范学院学报（社会科学版），2005（1）。
- 吴晓波，激荡三十年——中国企业 1978-2008（上），北京：中信出版社，杭州：浙江人民出版社，2007。
- 项飏，普通人的“国家”理论，开放时代，2010（10）。
- （美）闫云翔，私人生活的变革：一个中国村庄里的爱情、家庭与亲密关系（1949-1999），龚晓夏译，上海：上海书店出版社，2006。
- （美）詹姆斯·C. 斯科特，国家的视角：那些试图改善人类状况的项目是如何失败的，王晓毅译，北京：社会科学文献出版社，2011。
- 周飞舟，大兴土木：土地财政与地方政府行为，经济社会体制比较，2010（3）。
- 周黎安，转型中的地方政府：官员激励与治理，上海：上海人民出版社，2008。
- 周立群、谢思全，中国经济改革 30 年（民营经济卷），重庆：重庆大学出版社，2008。
- 周雪光，“逆向软预算约束”：一个政府行为的组织分析，中国社会科学，2005（2）。

（翻訳 中山大将）